

教科目標

国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。

基礎的・基本的な知識及び技能の習得、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力を育む

言語活動の充実

基本的な国語の力を定着させたり、言葉の美しさやリズムを体感させたりするとともに、発達段階に応じて、記録、要約、説明、論述といった言語活動を行う能力を培う。

朗読を通して文学的な文章を読み取り、目的を持って文章を読むことの事例

1 学年 第1学年

2 単元名 少年の日の思い出

3 単元の目標

- (1) 朗読することにより、場面の展開や登場人物などの描写に注意し、内容の理解に役立てることができる。(読むこと)
- (2) 文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分のものの見方や考え方を広げることができる。(読むこと)

4 言語活動の充実の視点

視点1：個人で朗読の仕方を考え、グループで朗読の仕方を考える。

視点2：朗読を通して感じたこと、考えたことを振り返る。

5 主な学習活動

時間	学習活動
1	○文章を通読し、話の展開や内容の大体をつかむ。 ○朗読する場面を決める。
2	○朗読の仕方を考えるための方法を確認する。
3	・朗読する際の観点(声の強弱・高低・話す速度・間の取り方等)と、その効果を理解する。 ○個人で朗読の工夫及びその理由を考える。 ・朗読する際の観点に基づいて、なぜそう朗読するかを考え、ワークシートにまとめる。 ・朗読の工夫に関しては、本文に根拠を求め考える。 ○グループで朗読の工夫及びその理由を交流する。 ・交流を通して気付いたことや朗読の修正点をワークシートに書き加える。(自分の考えと区別できるようにする) ○各自で朗読の練習をする。 視点1
4	○「朗読会」を開き、朗読を発表し合う。
5	○朗読の仕方考えることを通して、気付いたことをノートにまとめる。 視点2 ・自分が読んでいただけでは分からなかった作品の内容の解釈や読みの深まり捉える。

単元を貫く言語活動

- 国語科における言語活動とは「音読する」「考えを書く」「話し合う」といった活動が脈絡なく行われることではありません。生徒が自ら学び、課題を解決していくための学習過程を明確化し、単元を通して一貫した言語活動を位置付けることです。

授業づくりのステップ
「C読むこと」例

- Step1：指導内容(付けたい力)を見極める。
(例：表現描写を捉え内容を読む)
- Step2：付けたい力にふさわしい言語活動を位置付ける。(例：場面を工夫して朗読する)
- Step3：言語活動が生徒の課題解決の過程となるようにする。(例：朗読の仕方を個人で考え、グループで修正し合う)
- Step4：思考や判断を促す発問や指示を具体化する。(例：なぜそう朗読するのかを考える)

評価の観点

- 「国語への関心・意欲・態度」「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」「言語についての知識・理解・技能」の各観点で評価規準を設定します。
- 言語についての知識・理解・技能の観点は「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の学習状況を評価する観点です。